

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006 年 11 月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割も担います。

目 次	Pages
➤ 事務局活動報告	1
➤ 会員寄稿記事	6
➤ 会議・イベント案内	7
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	7
➤ 会員募集中	8

巻頭書記

現在 JRRN 事務局では、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)事務局として、8月中旬に韓国で開催される「第2回 ARRN 情報委員会・技術委員会」にむけて準備を行っております。また、本号の活動報告でお知らせする通り、9月には「ARRN 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」も開催されることが決まりました。ARRN メンバー内での協議や情報交換を通してさらなる発展へつなげ、JRRN の活動へ反映していきたいと考えています。

また本号では、7月8日に実施した国際建設技術協会の研修事業(台湾)支援の概要、JRRN 会員からの寄稿記事として、「水辺からのメッセージ No. 3」をご紹介します。今回の研修では、JRRN 会員への公開行事とする初の試みを行いました。

今後も、国内外に関わらず積極的な人材交流を目指して参りますので、引き続き、JRRN 会員の皆さまの積極的なご支援とご協力をお願い致します。

事務局活動報告(1)

台湾からの実務者研修受入れ報告

2009 年 7 月 8 日(水)、国際建設技術協会の研修事業で来日中の台湾政府の実務者一行が、リバーフロント整備センター(JRRN 事務局)を訪問しました。先方の研修テーマは「異常気象による洪水防御・治水対策」でしたが、地球温暖化による河川環境への影響や多自然川づくり、自然再生など、日本の河川における幅広い事例紹介・情報交流を行いました。

各事例の簡単な概要と研修当日の様子を以下に報告させていただきます。

<研修プログラム>

- ・日本の河川環境改善に向けた取組みの概要
- ・地球温暖化に伴う河川・流域環境への影響
- ・多自然川づくりへの展開
- ・円山川の自然再生
- ・河川事業の住民説明ツール
- ・ARRN/JRRN の紹介
- ・意見交換会

【1】地球温暖化に伴う河川・流域環境への影響

地球温暖化に伴う河川・流域環境への影響について、国土交通省などで公開されている基礎情報を紹介し、継続的なモニタリングや河川水辺の国勢調査などの既存データの分析から、河川環境の変化への適応策を検討する必要性を説明しました。地球温暖化による異常気象への懸念は、台湾でも非常にホットな話題であり、これからの情報交換が期待されます。

(説明者：沼田彩友美 JRRN 事務局・リバーフロント整備センター)

【2】多自然川づくりへの展開

平成2年から始められている「多自然型川づくり」から、平成18年に「多自然川づくり」へ展開した経緯や、「多自然川づくり」における河道計画の基本を全国の事例を踏まえ紹介しました。台湾でも河川環境再生を目的とした事業が実施されつつあるとのことで、日本の河川環境事業に関する最新動向が参考になったようです。

(説明者：今井素生 リバーフロント整備センター)

【3】円山川の自然再生

コウノトリが地域のシンボルとなっている円山川の緊急治水対策と合わせた自然再生の取組とその効果について紹介しました。コウノトリと人間が共生していたかつての川の姿や、「子どもの野生復帰大作戦（豊岡市教育委員会主催）」などユーモアのある取組みは、台湾の方々にも共感を得たようです。

(説明者：都築隆禎 リバーフロント整備センター)

【4】河川事業の住民説明ツール

最上川の支川、山形県管理の大旦川について、地域住民の視点に立って内水現象の発生メカニズムや

河川事業の効果を説明できる GIS シミュレーションを紹介しました。台湾でも同様の内水問題を抱えており、内水処理方式などに興味を持たれていました。

(説明者：後藤勝洋 JRRN 事務局・リバーフロント整備センター)



事例説明の様子

意見交換では、台湾の河川担当者としても、ARRN/JRRN の活動に非常に興味をもっているとのコメントをいただきました。研修に訪れた台湾政府経済部水利署では、最近、河川の自然再生のホームページ (<http://trrn.wra.gov.tw/>) を公開するなど、自国の情報発信に力を入れており、また、先日 ARRN の活動で作成した「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver. 1」にも興味を持って日本の事例も参考にしていきたいという意思を示していただきました。今回の研修で、非常に心強いパートナーシップが築かれ、更なるネットワークの拡大が図れたと思われます。短い時間ではありましたが、価値のある研修になったのではないのでしょうか。



台湾の記念品の贈呈



研修参加者との記念撮影



リバーフロント整備センター理事長への表敬

今回の研修行事に際しては、JRRN 初の試みとして JRRN 会員限定の公開行事とさせて頂きました。JRRN の活動として、海外の実務研修者の受入れはこれまでに何度か行ってきましたが、私ども事務局の対応を客観的に見直す機会がありませんでした。JRRN 会員の公開行事とすることで、より親密な情報共有の場を提供するとともに、参加者皆様から JRRN の活動に対しての自由な意見を頂くことを狙いました。今回の活動に関する参加者の声をお借りしますと、「海外の方への説明に少し、日本特有の事項に注意いただくと、通訳を含め先方にもっと理解していただけるのではと思います。例えば、堤防法面勾配は2割、5分と言わず、縦1対横2、縦1対横0.5と言うなど」。このようなご意見を頂くことで、私どもも新たな発見があり、次回の活動への反映、事務局自身のレベルアップに繋げてきたいと考えております。

今後も、JRRN 会員の皆様が ARRN/JRRN 活動により直接的に関わっていけるような機会を増やしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

(JRRN 事務局 後藤勝洋)

事務局活動報告(2)

「第6回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」(2009年9月・韓国)のご案内

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)設立前より毎年開催しております『ARRN 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム』を、本年は9月29日(火)に韓国・ソウル市で開催することが決まりました。

第1回～第4回までを東京で、また昨年の第5回フォーラムは中国・北京市で開催し、本年は韓国・ソウル市において、韓国建設技術研究院(KICT: <http://www.a-rr.net/jp/org/07/499.html>)主催の『河川環境国際ワークショップ(仮称)』と併催する形で実施を予定しております。

本行事の詳細は JRRN ホームページで後日お知らせしますので、もうしばらくお待ちください。

＜第6回国際フォーラムの企画案＞

◎開催日： 2009年9月29日(火)

◎開催場所： 大韓民国・ソウル市

◎プログラム案

- ・韓国における河川環境・再生の講演(2名)
- ・中国における河川環境・再生の講演(1名)
- ・日本における河川環境・再生の講演(1名)
- ・欧州における河川環境・再生の講演(3名)
- ・総合討議

なお、過去 5 回の本行事の概要を以下にご紹介させていただきます。

第 1 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム (2005 年 1 月 19 日 東京)

【講演 1】韓国・清溪川再生事業における水文学的考察
(韓国建設技術研究院 持続的水資源研究センター
センター長 Dr. KIM, Sung)

【講演 2】都市河川における浄化と美化：シンガポールの経験
(シンガポール政府貿易省電気水道局 部長
Mr. Yap Kheng Guan、都市再開発局 都市計画部長
Mr. Cheng Hsing Yao)

【講演 3】中国・蘇州河再生事業の紹介 (上海蘇州河環境整備事業団本社 上級技師 Dr. Hua Ming)

【講演 4】チェサピーク湾再生への歩み (メリーランド州天然資源省 長官 Dr. C Ronald Franks)

【講演 5】流域連携による河川再生：イギリス・マージ川流域キャンペーン
(マージ川流域キャンペーン事務局 次長 Mr. Mark Turner)

【講演 6】ヨーロッパ河川再生センター ー環境、経済、文化の持続可能なバランスに向けて (ヨーロッパ河川再生センター (ECRR) 事務局長 Ms. Ute Menke)



第 2 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム (2005 年 10 月 27 日 東京)

【講演 1】中国・漢口リバーフロント総合的洪水予防と環境改善と再生事業
(武漢市水務局副局長、華中科技大学教授 Dr. Jiang TieBing)

【講演 2】フィリピン・パシグ川マスタープラン (パシグ川再生委員会 事務局長 Dr. Bingle H. B.Gutierrez)

【講演 3】米国・包括的エバーグレース再生プログラム
(南フロリダ水管理局 エコシステム再生代表部次長
Mr. Paul A. Warner)

【講演 4】イタリアにおける河川再生における課題と今後の展開：イタリア河川再生センターの事例を中心に
(イタリア河川再生センター Mr. Giuseppe Dodaro)

【講演 5】マレーシアとインドネシアにおける河川流域イニシアティブの取組み (地球環境センター 局長
Mr. Faizal Parish)

【講演 6】韓国における河川復元の事例 (韓国建設技術研究院 水資源研究部 主任研究員 Dr. Hong-Kyu Ahn)



第 3 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム 及び ARRN 設立式典 (2006 年 11 月 9 日 東京)

【講演 1】ヨーロッパの情報交換ネットワークの活用と河川政策の今 (フィンランド環境研究所 Mr. Jukka Jormola)

【講演 2】三峡ダム事業向上のための環境に配慮した水文学的、水力学的研究調査プロジェクト (中国水利水电科学研究院 水環境研究所 Dr. Wen Gen Liao)

【講演 3】韓国の河川再生について (韓国建設技術研究院水資源研究部 Dr. Chang Wan Kim)

【講演 4】日本の河川再生について (国土交通省河川局河川環境課 原田 昌直)

【講演 5】マレーシアにおける河川再生（マレーシア灌漑排水局河川部 Ir. Weng Keong Cho）



第 5 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム (2008 年 11 月 4 日 中国・北京市)

【講演 1】河川環境改善に向けた生物・非生物的要因の関係分析～韓国京畿地方の事例（韓国建設技術研究院 上席研究員 Dr. Chang Wan Kim）

【講演 2】河川・流域再生における自然共生型環境管理技術開発について～伊勢湾流域圏での取組み（名古屋大学 准教授 戸田祐嗣）

【講演 3】河川再生の理論と実践（中国水利水電科学研究所 教授 Prof. Dong Zheren）

【講演 4】中国における河川整備と再生（中国清華大学 水理科学・技術研究所 教授 Prof. Wang Zhaoyin）

【講演 5】三峡プロジェクト運営管理における生態系が必要とする条件（中国科学院水資源省 水利研究所 教授 Prof. Chang Jianbo）

第 4 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム (2007 年 11 月 30 日 東京)

【講演 1】隅田川を中心とした河川再生（東京都建設局 河川部計画課 課長 長島 修一）

【講演 2】韓国の河川再生プロジェクト（韓国建設交通部 河川計画課 課長 Mr. Sukhyun Kim）

【講演 3】中国・長江における“四大家魚”の産卵環境再生について（中国水利水電科学研究所 水環境研究所 副所長 Dr. Wen Gen Liao）

【講演 4】タイの河川・湿地再生に関する取組み（タイ天然資源環境省 水資源局水資源政策計画部 部長 Mr. Surapol Pattanee）

【講演 5】ヨーロッパの河川再生に向けた政策と情報交換（イギリス河川再生センター センター長 Mr. Martin Janes）



第 6 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム (2009 年 9 月 29 日 韓国・ソウル市)

本年の行事の詳細が決まりましたら、JRRN ホームページ (<http://www.a-rr.net/jp/>) でご案内します。

(JRRN 事務局 和田彰)

水辺からのメッセージ No.3

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二（JRRN 会員）

用水に映る伝統的風景：加賀百万石の格調ある武家屋敷が今も息づく （大野庄用水）



撮影：2009年6月 岡村幸二

◆武家屋敷そのままに今の暮らしが

複雑に入り組んだ石畳の路地と黄土色の土塀が連なり、当時の面影を色濃く残しています。車のガレージにも必ず木製の引き戸が設置されているのには驚きます。

◆様式が統一された用水の造形美

古い用水が残っているまちは全国に多くありますが、自然石の統一された“縁石”と石を半割りした面を見せる独特の石積み護岸によって、ここ金沢にしかない風情が醸し出されています。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

会議・イベント案内 (2009 年 8 月以降)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

■ARRN 主催「第 6 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」

○日時： 2009 年 9 月 29 日 (火) ※言語：英語

○会場： 韓国・ソウル市内もしくはソウル市近郊

※ プログラムの詳細は、確定次第、JRRN ホームページでご案内します。→ <http://www.a-rr.net/jp/>

(その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント)

■日本生態学会自然再生講習会

○日時：2009 年 8 月 1 日 (土) 13:30-17:00

○主催：日本生態学会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1264.html>

■第 3 回 「流域圏と生物多様性」

○日時：2009 年 8 月 4 日 (火) 13:30-17:30

○主催：「伊勢湾流域圏の自然共生型環境管理技術開発」研究 G

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1348.html>

■第 4 5 回水工学に関する夏期研修会

○日時：2009 年 8 月 5 日 (水) ～6 日 (木)

○主催：(社)土木学会

<http://www.a-rr.net/jp/event/04/1310.html>

■第 14 回水シンポジウム 2009in にいがた

○日時：2009 年 8 月 11 日 (火) ～12 日 (水)

○主催：第 14 回水シンポジウム 2009in にいがた実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1324.html>

■第 18 回日本水環境学会市民セミナー

○日時：2009 年 8 月 25 日 (火) 10:00～17:00

○主催：日本水環境学会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1352.html>

■第 135 回 河川文化を語る会「川と氾濫原の生物多様性」

○日時：2009 年 8 月 26 日 (水) 18:30～20:30

○主催：(社)日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1346.html>

■第 136 回 河川文化を語る会「ゲームで学ぶ災害リスク・コミュニケーション」

○日時：2009 年 9 月 7 日 (月) 18:00～20:00

○主催：(社)日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1325.html>

■水フォーラム 2009

○日時：2009 年 9 月 13 日 (日) 10:00～16:30

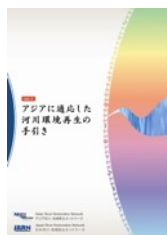
○主催：水フォーラム 2009 実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1295.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 (2009.3 発刊)

- ・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)
- ・価格：無 料



ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

■ 水辺のミュージアム vol.2 (2009.1 発行)

- ・発行：(財)リバーフロント整備センター
- ・価格：無 料



全国の「水辺」にかかわる資料館・博物館を紹介した冊子「水辺のミュージアム」の第二弾が発行されました。一見して捉えにくい水辺の魅力や展示方法をわかりやすく紹介しています。

本書をご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。 電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

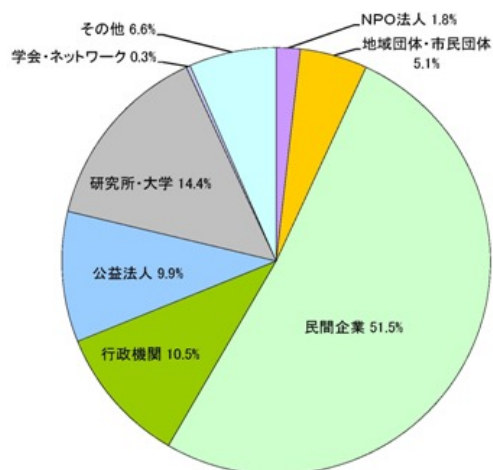
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参
加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河
川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支
援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2009 年 7 月 27 日時点の個人会員構成
(個人会員数：344 名、団体会員数：10 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

※2009 年 6 月 1 日より事務所が移転しました

財団法人リバーフロント整備センター 企画グループ 内

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 ロフター中央ビル 7 階

Tel: 03-6228-3860 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>